

生物多様性の保全と持続可能な社会のために

札幌市円山動物園 オオワシ 国際シンポジウム in SAPPORO プログラム

平成20年6月23日(日) 13:00~16:30

12:30	受付開始
13:00	主催挨拶 札幌市長 上田 文雄
13:05	来賓挨拶 ◎レオニードL・シェフチューク 氏(在札幌ロシア連邦総領事) ◎浅野 能昭 氏(環境省 北海道地方環境事務所所長)
13:15	コンセプト説明 ◎齊藤 慶輔 氏(猛禽類医学研究所代表・獣医師)
13:25	キーノートスピーチ ①「円山動物園におけるオオワシの現状と取組」 ◎金澤 信治 氏(札幌市円山動物園園長)
13:45	②「スコットランドと西ヨーロッパにおける オジロワシの再移入―進捗状況と手法」 ◎ロイ・H・デニス 氏 (ハイランド・ファウンデーション・フォー・ワイルドライフ理事・ 英国オジロワシプロジェクトチームメンバー)
14:15	③「ロシアにおけるオオワシの生息現況と それを脅かす要因。ヨーロッパ・アジア 地域動物園協会による飼育下での 個体数安定のための計画の実績」 ◎ウラジミール・マステロフ 氏(オオワシ研究者 モスクワ大学教授)
14:45	休憩(15分間)
15:00	パネルディスカッション <ファシリテーター> ◎齊藤 慶輔 氏(猛禽類医学研究所代表・獣医師) <パネリスト> ◎金澤 信治 氏(札幌市円山動物園園長) ◎ロイ・H・デニス 氏 (ハイランド・ファウンデーション・フォー・ワイルドライフ理事・ 英国オジロワシプロジェクトチームメンバー) ◎ウラジミール・マステロフ 氏(オオワシ研究者 モスクワ大学教授) ◎坂本 真一 氏(環境省 北海道地方環境事務所 統括自然保護企画官) ◎北村 健一 氏(元札幌市円山動物園園長・日本動物園水族館協会専務理事)
16:30	終了



【プロフィール】



●ファシリテーター
◎齊藤 慶輔(さいとうけいすけ)氏
(猛禽類医学研究所代表・獣医師)

日本獣医畜産大学 野生動物学教室専攻、環境省 釧路湿原野生生物保護センターを拠点に絶滅の危機に瀕した希少猛禽類の保全医学的活動を行う。近年最も力を注いでいる研究・活動のテーマは、猛禽類の鉛中毒根絶と環オホーツク圏におけるオオワシの保護。環境省希少野生動物種保存推進員、北海道地方環境事務所調査員、オオワシ・オジロワシおよびシマフクロウ保護増殖分科会検討委員、日露オオワシ専門家会合委員。WAWV(世界野生動物獣医師協会)理事、日本野生動物医学会 幹事、サハリン・ジャパン・ワイルドライフネットワーク代表、北海道ラプターリサーチ代表、ワシ類鉛中毒ネットワーク副代表。



●パネリスト
◎ロイ・H・デニス 氏
(ハイランド・ファウンデーション・フォー・ワイルドライフ理事・
英国オジロワシプロジェクトチームメンバー)

1958年より野外鳥類学者として、主にスコットランド高地地方にて活動。過去50年、北部スコットランドの鳥類の保護及び管理の主要な活動に多数参加・指導。同様の分野で活動する世界中の人々と定期的に連絡を取り合い、様々な国を訪れ、経験を積む。ここ数年間は特に鳥類学を専門としているが、他分野への興味もつきることはなく、現在は包括的生態系アプローチにも傾倒。1980年からは生態系回復に取り組み、荒廃する地方の戦略的強化について助言を行う。1984年から2006年の間、ケーンゴルス山脈の北部丘陵地帯で自炊生活しながら、繁殖雌牛、黒綿羊を扱う伝統的小作農地での作業を手伝う。この実地体験は、地域社会と協力しながら土地利用と自然保護の調和をはかるという自身の仕事において貴重な経験となる。常に、自然への配慮を促し、自然資源の持続可能な利用や、農業と林業、そして自然保護の調和の必要性について人々の理解を深める手助けをすることに特に興味を抱いてきた。そのために、市民集会や学会などで頻繁に講演を行い、テレビやラジオにも定期的に出演し、論文や一般向けの記事、書籍を執筆。



●パネリスト
◎ウラジミール・マステロフ 氏
(マストロフ・ウラジーミール・ボリスヴィッチ)
オオワシ研究者 モスクワ大学教授

1988:動物学・生態学終了(理学修士に相当)1991:大学院生物学1992:モスクワ大学動物学・生態学博士現在の役職:上級研究員野生生物生態学者/動物学者として学び、主な研究的関心はこれらの分野において多岐に渡っている。・鳥類個体群生態学・自由生活鳥類の生態学的エネルギー論・鳥類の渡りの研究・希少鳥類の管理と監視・レクリエーションと野生生物の相互関係・野生生物の保護と自然資源の管理・野生生物の管理と影響緩和現地調査の地域:ロシア極東地域(サハリン島、アムール川、千島列島)